

こうよう／秋の終わり頃、木の葉が黄色く色づくこと。銀杏、樺、榎などの黄葉をいう。古くは、晩秋の落葉樹が紅色、黄色に色づくのをすべて黄葉と記した。

# らしく、 粋なくらし

CLOSE UP

## 広島城下の 街道に注目



CLOSE UP 01

まちなか西国街道推進協議会

平成31年は旧広島藩主浅野家の広島入城400年  
歴史と人と未来をつなぐ新たなにぎわいづくりを目指す



CLOSE UP 02

可部夢街道もてなし隊

出雲石見街道が通る可部、歴史あるまちを  
住民が案内し伝える



CLOSE UP 03

五日市西国街道散策倶楽部

西国街道の歴史を学び、実際に訪れ伝える

連載

▶らしくレポート 街道のまちと古民家で広がる“仲間の輪”

▶らしくコラム・ネコ好きの聖地?広島市中区猫屋町の歴史! ▶ようこそ!公民館へ〜安佐南区内公民館〜

▶人材バンク 名人 宝人 達人 ▶Hm助成支援団体のご紹介 ▶情報の森 ▶プラザ通信



# 平成31年は旧広島藩主浅野家の 広島入城400年 歴史と人と未来をつなぐ 新たなにぎわいづくりを目指す

「ひろしま歴史再発見 出前授業」の様子（鞆町小学校）

CLOSE UP

## 広島城下の街道に注目

江戸時代の広島城下は、京都と下関を結ぶ「西国街道」を中心に商業が発展したにぎやかなまちでした。歴史ある街道を中心に、地域の活性化や伝承に取り組んでいる団体を紹介します。

### まちなか西国街道推進協議会

<https://ja-jp.facebook.com/machinaka.saigoku/>

#### 江戸時代、広島で最も活気があった西国街道

1589年、毛利輝元が築いた広島城を中心に城下町となった広島。その後、時代とともにさまざまな形で発展を遂げてきた城下町広島を支えてきたのが「西国街道」です。

広島の中心部、広島駅周辺から八丁堀、紙屋町、広島平和記念公園をつなぐ「西国街道」を「まちなか西国街道」とし、地域



▲「ひろしま歴史再発見 出前授業」の様子（竹屋小学校）

の活性化に取り組むのが「まちなか西国街道推進協議会」です。

平成28年春、紙屋町と八丁堀地区の間にある仏壇通りの商店主や有識者約40人で準備委員会を立ち上げると、その後は2ヵ月に一度の会

議を積み重ね、平成30年3月に設立。「今、再開発が進み変化が続いているJR広島駅周辺と、商業施設が集まる中区の紙屋町、八丁堀地区は、かつて西国街道があった場所です。古くから広島で最も活気があったとされる場所に、もっと人の往来が戻ってくれば市中心部の魅力が高まり、にぎわいも生まれてくるはず」と語るのは事務局の高山正さん。

#### 先人たちが残した偉大な歴史を、未来を担う子どもたちに伝える

「ゴロ合わせで3月15日を「西国街道の日」として独自に制定。キックオフイベントとして、中区のライブカフェに広島市郷土資料館の学芸員を招き、広島市中心部の江戸時代から近代への移り変わりを紹介する「西国Bar」を実施。江戸時代は、街道沿いに商家が並び、広島で最も活気があったことなどを解説し、私たち市の観光宣伝隊「安芸ひろしま武将隊」のメンバーも参加して盛り上げました」と協議会のメンバーで、武将隊では毛利元就役を務



▲ 西国Barの様子（平成30年3月15日）

める平岡優一さん。

平成30年9月には子どもたちに、自分の住んでいるまちの歴史を知ってもらい、郷土愛を育みたいとの思いから、広島市内の小学校3校（鞆町小学校・袋町小学校・竹屋小学校）で「ひろしま歴史再発見出前授業」を実施。広島市郷土資料館と広島城の学芸員、平岡さんの3人が講師を務め、小学生に町名や古地図、文献といった資料をもとに、身近なまちの歴史をひも解く授業を行いました。「授業を受けた小学生からは、「普段当たり前のように見たり、通っていたりする場所のルーツを知る機会は滅多になく、貴重な時間を過ごすことができた」などの感想があり、教える私たちも、自分たちが住んでいるまちの良さを再発見することができました」。

今後は、まちの中に西国街道を可視化する活動として、行政へ働きかけ、広島市立大学の学生がデザインしたマンホールの蓋を、街道沿いに設置したり、JR広島駅南口交通案内所の案内図看板に、西国街道を標す計画も進んでいます。実際に歩いて、西国街道を実感できると思います。ほかにも、通り御祭礼、コスプレ行列、スタンプラリーなどさまざまなイベントを考えています。

「広島城築城後、西国街道を中心に栄えた広島には、長い歴史があります。自分たちが住む今の広島は、どうやって築かれ発展したのか。先人たちが苦勞を積み重ねて築いた歴史を知ると、誰もが今の広島を愛おしく思うはずです。歴史を知ることによって、広島をもっと好きになって欲しいですね」と高山さん、平岡さんは語ってくれました。

歴史を通して、まちのにぎわい創出や故郷の良さを改めて子どもたちに伝えるなど、さまざまな事に挑戦する皆さんの志に、熱い思いを感じました。



▲ 平岡優一さん（左）と高山正さん（右）

特集

01 広島城下の街道に注目

▶ まちなか西国街道推進協議会



西国Barの様子  
（平成30年3月15日）

▶ 可部夢街道もてなし隊



ボランティアガイド  
による案内の様子

▶ 五日市西国街道散策倶楽部



講座の散策会の様子

05 らしっくレポート ひろ記者が行く

▶ 街道のまちと古民家で広がる“仲間の輪”

らしっくコラム

▶ ネコ好きの聖地？広島市中区猫屋町の歴史！  
安田女子大学 文学部  
高木 久史 准教授

06 ようこそ！公民館へ

▶ 安佐南区内公民館

07 人材バンク 名人 宝人 達人

▶ ペーパー・ムーン  
▶ 山田 道信さん

09 Hm助成支援団体のご紹介

▶ 佐伯文化芸能振興会  
▶ みんなの寺子屋  
▶ あとぴっこ親子の会「みんなで」

11 情報の森

15 プラザ通信

# 出雲石見街道が通る可部、歴史あるまちを住民が案内し伝える

## 可部夢街道もてなし隊

### 5団体が連携して、ガイドブックを作成 ガイドグループを結成

広島市安佐北区可部地区に残る古いまち並みを案内し、歴史を伝えるために平成25年に「可部夢街道もてなし隊」が発足しました。平成25年3月「可部カラスの会」「可部夢街道街づくりの会」「可部ガイドクラブ」「NPO法人ウイングカベ」「広島文教女子大学」の5団体が連携して「可部夢街道もてなし隊ご案内ハンドブック」を作成したのがきっかけです。



▲「わがまち可部—あなたも可部通」(平成21年作成)「可部夢街道もてなし隊ご案内ハンドブック」(平成25年作成)

「平成9年から「可部カラスの会」は、可部の歴史を含めて知ってもらい、住みやすいまちにしようと考えて活動していました。活動しながら十数年の時間をかけて集めた資料をまとめ、平成21年に「わがまち可部—あなたも可部通」を作りました。この資料を使って、散策に訪れた人たちのガイドをしていました。その後、同じようにまち案内に取り組んでいた「可部夢街道街づくりの会」と連携を図っていく中で、もっと持ち運びに便利なガイドブックがあればと思いついて、「可部夢街道もてなし隊ご案内ハンドブック」を作りました」と話をしてくれたのは、可部カラスの会のメンバー山口美智恵さん。

可部は古くから交通の要所であった「出雲石見街道」が通って



▲ 今も残る直角に曲がる道路「折れ目」

おり、江戸時代、敵の侵入を困難にするために作られたとされる、急に直角に曲がる道路形態「折れ目」があります。このガイドブックには、神社仏閣や折れ目など、可部地区の名所113カ所が写真入りで紹介されています。



▲ 山口美智恵さん(左)と三島満里子さん(右)

### まちの魅力を伝え、次世代に継承する

「現在、5団体から集まった34人が登録。公民館を通してまち案内の要望を受け、ボランティアガイドがまち案内をしています。可部には、城跡や神社仏閣はもちろん、商家が並び栄えた街道の名残、さらには、自生する榎木から獲れる山藪で栄えた明治から昭和初期のまち並みなど、歴史的な見所がたくさん残っています。「可部カラスの会」の皆さんが時間をかけ集めた資料をもとに、私たちは散策に訪れた人たちに可部の魅力を伝える。幅広い人たちに知ってもらうための歴史のバトン継承を、世代を超えて取り組んでいるのが、可部のまちの良さだと思います」と、コミュニティサロン「可笑屋」の三島満里子さんは語ります。

今後は、地域で活動する若い世代との連携も深めて、残された歴史や文化の共有を図り、後世に伝えていくことが課題と、山口さん、三島さんたちは感じています。歴史的価値の高いまち並みや街道を、次世代に伝えていこうとする皆さんにこれからも期待します。



▲ ボランティアガイドによる案内の様子

# 西国街道の歴史を学び、実際に訪れ伝える

## 五日市西国街道散策倶楽部

### 西国街道の散策から古代山陽道、 都志見往来日記を辿る散策にまで広がる

平成15年度に、五日市公民館が主催した「街並み再発見講座」をきっかけに、平成16年「五日市西国街道散策倶楽部」が発足しました。

「当時、講座の集大成として受講生が一年をかけて、「西国街道ぶらり散策まっぴり五日市～五日市～井口」を作ったんです。講座が終了した後、受講生が集まって、その散策マップを使った勉強会をするために立ち上げたのが、五日市西国街道散策倶楽部です」現在も指導員を務める、佐々木卓也さんはこう語ります。



▲ 佐々木卓也さん

約30人の会員で始まった同会は、平成17年9月から3ヵ月間、広島市で開かれたイベント「ひろしま八区覧会・八区物館」にも協力。その年の春にプレイベントとして西国街道散策会を主導したのを皮切りに、イベント本番となった11月の散策会でも存在感を発揮し、西国街道に関する豊富な知識と見どころを、参加者に平易にレクチャーし好評を得ます。

「当時は広島市内で、散策マップを作って散策会を開いていたのは「やはたがわまっぴり」や「草津まちづくりの会」「可部カラスの会」「二葉の里歴史の散歩道ボランティアガイドの会」の4団体が先駆者的な存在でした。私たちは、その4団体に追いつけ追い越せの気持ちで、精力的に散策会を実施。その活動範囲は、西国街道のみならず「古代山陽道」や広島藩の絵師岡嶋山の「都志見往来日記」に記された場所を辿ることまで広がり、参加者



▲ 「ひろしま八区覧会・八区物館」で使用された散策マップ

が街道を実際に歩き、歴史を感じてもらえたと思っています。散策マップを使うことで、史跡の場所と説明を一目で見て理解し、当時の様子を具体的にイメージすることができます」。

ほかにも散策では、佐伯区にある街道松を訪れることもあるそうです。街道松は江戸時代、五街道(東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道)をはじめ西国街道にも植えられていました。当時は約三間(5m強)ごとに植えられ松原通りと呼ばれていたようですが、現在では2本の松のみが残っています(廿日市街道松と中野砂走の出迎え松の6本も現存)。



▲ 光禪寺参道横の「誓いの松」と呼ばれるクロマツ



▲ 楽々園にある街道松を訪れる様子

### 歴史街道を散策する活動が各地で活性化、 次世代継承にも取り組む

平成19年に広島五日市ライオンズクラブ創立30周年記念事業のひとつとして、「五日市まちめぐり散策路:あまじやくと歩く通りみち」を作成。地域にある歴史的遺産を散策マップと案内板を使い、地域に住む人はもちろん、訪れる人にも知ってもらう活動を続けました。また毎年、講演会と散策会を組み合わせた講座を企画。一年を通して、西国街道の魅力について学ぶ講座を開いています。

「約15年に渡る活動の中で、散策マップを使って歴史的まち並みを散策する活動が、各地域で活性化していると感じています。私たちの活動がその一役を担うことができたことは、大きな自信にも繋がっています。発足当初の会員は、皆シニア世代となり、同世代の生涯学習のサポートも増えてきています。今後は次世代への継承が課題です。これからは、地域の小学生や中学生たちに、歴史を伝える出前講座などを行って、若い世代にもその魅力を伝えていきたいですね」佐々木さんは今後の抱負を語ってくれました。地域に残っている歴史的遺産を広く伝え、後継者育成にも取り組もうとされる姿に、大きな可能性を感じました。



▲ ふるさと歴史講座の講演会の様子